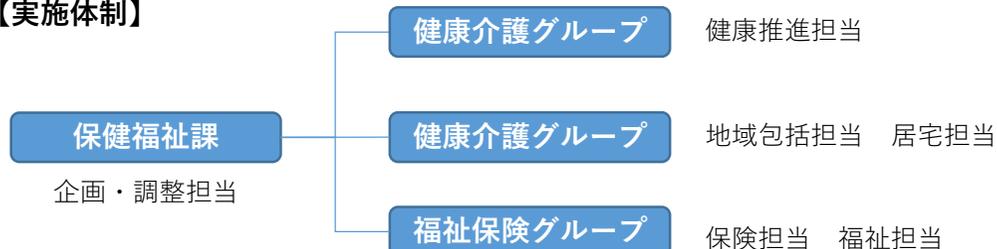


- 士幌町商工会と連携した「健康マイレージ事業」を実施。受診した健診の内容に応じて、町内の商店街で利用できる「えがおの商品券」を配布。また、健診と健康づくりの活動を連動させた健康マイレージビンゴ事業を展開し、健康づくりと地域の活性化を両立させた保健事業を実施。
- 十勝薬剤師会、十勝医師会と連携した服薬指導を実施。節薬バッグを配布し、薬剤師等に相談することで、薬量の調節、重複服薬を防ぐ体制を構築。

町の概況		
人口		6,132人
高齢化率		29.3%
後期被保険者数		1,046人
日常生活圏域数		1圏域

(KDBシステムより引用)

【実施体制】



取組経緯

- 町の課題として、後期高齢者の健診受診率が3.6%と国保の健診受診率と比較して低く、また、町の施設中心型の介護提供体制から介護保険料が北海道内上位となっており、町においても高齢化の進行が予想されることから、後期高齢者の健診受診率の向上や、介護予防事業の充実の必要性を感じていた。
- こうした状況の中で、複合的な健康課題を抱えた高齢者のフォロー体制の構築において、関与していく医療専門職の職種により対象者へのアプローチが異なることが課題としてあり、各担当の連携の必要性を感じていたことをきっかけに、令和2年度から本事業を開始するに至った。

企画・調整等

- **KDB及び委託を活用した医療費・健康課題の分析**
医療費・健康課題をKDBデータ及び委託業者のデータを平行して分析。
KDBの都道府県及び国との詳細な比較、委託業者の町における事業実施に特化したデータ。双方の強みを活用し、地域が抱える健康課題を多面的に分析。分析結果から士幌町の健康課題に即した、健康推進事業を企画立案。

ハイリスクアプローチ

- **服薬指導**
医療費分析を委託し対象者を抽出後、福祉・居宅介護事業所、包括担当など支援を担当する専門職と協議し、特に介入が必要な対象者については、健康推進担当が訪問指導を実施。町内の医療機関・調剤薬局と連携を取り、服薬指導通知送付後の相談体制を構築。
事業実施の結果、薬剤数の減少が見られ、医療費削減効果が顕著に現れた。
(↓薬局に持ち込む節薬バッグ)
- **健康状態不明者等**
健診未受診者かつ医療機関への受診のない対象者を抽出。質問票に基づき保健指導を実施。訪問前に事前に手紙を送付するなど、スムーズに指導が進むよう工夫した。



ポピュレーションアプローチ

- **通いの場への積極的関与**
各通いの場において、健康教育・気軽に相談できる体制づくりを構築。また、質問票や体組成計を活用し、フレイル状態の把握を行い、その結果から必要に応じて包括支援センターへの情報共有や家庭訪問を実施した。



今後の展望、課題

- **高齢者の保健事業の体制整備**：高齢者保健事業（健診事業や健康教育事業）を整理・再構築するとともに、高齢者が健康づくりの取り組みをさらに行ってもらえるよう健康マイレージ事業等を拡充予定。
- **服薬相談体制の広域化**：服薬指導における相談体制を、町内の医療機関・調剤薬局のみでなく、十勝管内の医療機関や薬局でも行えるよう相談体制の広域化を模索中。